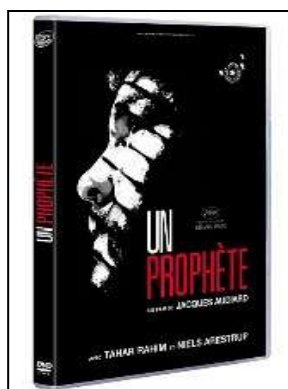


Les Ressources du mois

- Juin 2010 -



DVD du mois



Un Prophète, Jacques Audiard, 2008

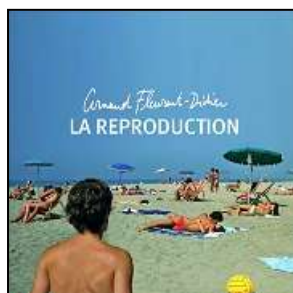
監督：ジャック・オディアール

出演：ニエル・アレストラップ、アデル・ベンチェリフ

18歳で、読み書きができない少年マリクは、警察官に暴行した罪で6年の刑に処される。刑務所では、コルシカマフィアのボスの手先となりながらも、野心に燃える少年は、自分自身のネットワークを作り上げていく…。

2009年カンヌ映画祭グランプリ作品、2010年アカデミー賞外国語映画賞ノミネート、セザール賞では13部門でノミネートされる等、21世紀に入った現在、最も偉大なフランス人映画監督と言われているジャック・オディアールの衝撃作品をぜひご覧ください。

A écouter à tout prix !



La reproduction, Arnaud Fleurant-Didier, 2010

アルノー・フルーラン=ディディエ

この内気且つ饒舌な若者によってフランスのシャンソンは救われると断言できるでしょう。博識なポップは、ゲنزブルを初めとして、60~70年代のポルナレフやクリストフ、そして、モリコーネ等のフレンチタッチを生み出した巨匠たちに大いに影響を受けているといえます。アルノー・フルーラン=ディディエは歌うというより、語るという感じだが、そのテキストはあくまでも爽やかで、その世代の持っている「軽さは芸術だ」的な雰囲気や代弁しているかのようです。

BD du mois



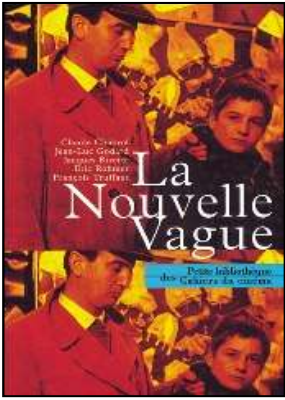
La femme piège, Enki Bilal, 1986

『罠の女』エンキ・ビラル

ジル・ビオスコップは未来のジャーナリスト。彼女の人生は分裂しており、現実という観念が失われている。髪はキュラソーブルー。行方も定まらず、ロンドンからベルリンへとさ迷う。そして、ニコポールはジル・ビオスコップの跡を追い、南アフリカへ…

ニコポール三部作の2作目。エンキ・ビラルの素晴らしい世界を満喫してください。

A découvrir



La Nouvelle Vague - Petite anthologie des Cahiers du cinéma, Antoine de Baecque et Gabrielle Lucantonio, 1999

映画史の中でも非常に重要な時代を明らかにしてくれる一冊。ヌーヴェル・ヴァーグの作家たちが、元々は「カイエ・デュ・シネマ」誌の評論家であったことは有名な話だが、この雑誌自身、ヌーヴェル・ヴァーグという運動自体をどう見ていたかということにも言及している。また、1957～68年に同誌に収録された、ゴダール、シャブロー、トリュフォー、ロメール、リヴェットといったヌーヴェル・ヴァーグの代表的な監督達へのインタビューもまとめられており、全員が、特に、現代性や古いものと新しいものということを常に考えていたのが良く分かる。

En français facile



Le tour du monde en 80 jours, d'après Jules Verne

『80日間世界一周』ジュール・ヴェルヌ原作

フィリアス・フォッグは、ロンドンに住み、彼の家とリフォーム・クラブの間を行き来しながら、毎日規則的で平穏な日々を送る紳士でした。ある日の午後、そのクラブのゲーム仲間たちと、80日間で世界一周ができるかどうかというおかしな賭けをするはめに……。果たして、成功するのか？

Pour les petits (et les grands...)



Princesses inconnues ou oubliées, Philippe Lechermerier et Rebecca Dautremer, 2004

プリンセスには、シンデレラを初めとして、セレブな方々も沢山出てきますが、中には、忘れ去られたり、いわれもなく打ち捨てられている人々も。そこには、ストーリーがあり、こぼれ話があり、秘密があり……。笑い、恐怖、そして、夢を見せてくれたり……。と色々あるわけです。未だかつてなかった、プリンセスを語る。なんて、皆さんが見たことのないプリンセスたちを見せてくれる……。そんな一冊。

La presse française à l'Alliance



Elle à table

皆さんご存じの、『エル』ですが、その中でも、フランス人にとってとても大切な食を扱った雑誌『エル・ア・ターブル』。フレンチテイストたっぷりな記事が満載！オーガニックなフランスの食生活は？なんていうのも垣間見れるかもしれませんね。現在のアリアンスにあるものは、この表紙の前の号ですが、フランスの食のモードを知るにはぴったりの雑誌であることは間違いありません。